



## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年10月31日

上場会社名 株式会社 三ツ星  
コード番号 5820 URL <https://www.kk-mitsuboshi.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 邦博

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 小川 直樹

TEL 06-6261-8882

四半期報告書提出予定日 2023年11月14日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	4,877	0.0	0		35	75.4	94	
2023年3月期第2四半期	4,877	12.0	95	22.1	142	11.7	107	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 144百万円 ( %) 2023年3月期第2四半期 131百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	27.45	
2023年3月期第2四半期	31.19	

(注) 当社は、2023年4月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	12,073		6,462		53.5	
2023年3月期	10,950		6,072		55.5	

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 6,462百万円 2023年3月期 6,072百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		50.00	50.00
2024年3月期(予想)				17.00	17.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は、2023年4月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2023年3月期期末配当金については、当該株式分割前の配当金の額を記載しております。

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,000	0.5	100	35.7	135	33.9	170		49.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日(2023年10月31日)公表の「2024年3月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1 社 (社名) 株式会社河南伸銅所 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	3,799,965 株	2023年3月期	3,799,965 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	357,071 株	2023年3月期	359,271 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	3,441,611 株	2023年3月期2Q	3,439,440 株

(注) 当社は、2023年4月21日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期中平均株式数」を算定しております。

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書 .....	6
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書 .....	7
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における行動制限の段階的な緩和により、経済活動において回復の動きが見受けられるものの、エネルギーや原材料の価格高騰に加え、急激な円安や世界的な金融引き締めによる金融市場の変動等により、依然として景気の先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループに関連する事業環境におきましては、設備投資においては持ち直しの動きが続き、公共投資も底堅い動きを維持していますが、電線事業およびポリマテック事業の業界におきましては材料価格やユーティリティ価格の高騰を受け厳しい状況が続いております。また、電熱線事業におきましては自動車関連分野では回復傾向がみられましたが、未だに需要低迷は続いており、加えて製造分野での過剰在庫の調整も続いている状況です。

このような状況の中、当社グループにおきましては、ESG（環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance））を経営方針の中核に据え、4S（新）運動（新分野開拓・新製品創出・新顧客増強・新グローバル戦略推進）を推進し中長期的、持続的な成長を目指しております。また、原材料・サプライチェーンの見直しによるコストダウン、工場の生産性向上、品質の維持による生産力強化にも取り組んでおります。

また、第3四半期会計期間より、ポリマテック事業での新しい取り扱い製品として、LED照明の販売を開始いたします。なお、この製品の下期での売上高は約100百万円を見込んでおります。

利益面におきましては、材料価格やユーティリティ価格の高騰により、営業利益と経常利益が前年同期比で減益となりました。一方、特別利益として新たな子会社の取得に伴う負ののれん発生益を計上いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は4,877百万円（前年同期比0.0%増）、営業損失は0百万円（前年同期は営業利益95百万円）、経常利益は35百万円（前年同期比75.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は94百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失107百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### [電線]

電線事業の主要な市場である建設・電販は小幅な増加にとどまり、加えて銅建値が高値で推移していることや、原材料やエネルギー価格の高騰、人手不足の継続といった懸念材料は残ったままであり、予断を許さない状況でありました。

このような状況の中、展示会の開催等も増加したことで対面での営業活動が活発となり、案件獲得等によりゴム電線、プラスチック電線ともに販売量は増加いたしました。国内銅価格は昨年より高値の1,264千円/トン（期平均）で推移し、売上高は3,513百万円（前年同期比5.3%増）となりました。

利益面におきましては、銅価格の変動に伴う価格改正、高付加価値製品の販売強化、継続的な経費削減、生産性向上、材料関係のコストダウン等に取り組みましたが、市場価格の下落、為替の影響等によりセグメント利益は14百万円（前年同期比40.5%減）となりました。

#### [ポリマテック]

ポリマテック事業におきましては、主力製品である住宅関連部材に関して新設住宅着工戸数の減少の影響を受け、厳しい状況で推移しました。

このような状況の中、営業面では新規案件獲得に向けて、住宅建材以外の業界への積極的な営業活動を行いました。特に高機能チューブ製品の海外向け製品の落ち込みが大きく、売上高は934百万円（前年同期比0.4%減）となりました。

製造面では生産量が減少する中、生産性の改善を行い、工程中不良は前年同期比22%減と改善されました。しかし、昨今の人件費の上昇に加え、人材確保が困難な状況となっていることから、さらなる生産性の改善が必要です。

利益面におきましては、今年6月より取り組んでいる在庫削減の成果が出始めており、在庫量を一定の水準で管理し続けておりますが、販売量と生産量の減少の影響を受け、セグメント損失は26百万円（前年同期はセグメント利益2百万円）となりました。

また、第3四半期会計期間より、ポリマテック事業での新しい取り扱い製品として、LED照明の販売を開始いたします。なお、この製品の下期での売上高は約100百万円を見込んでおります。製造面では、さらなる工程中不良の低減および生産性の向上による製造原価の低減に取り組んでまいります。

#### [電熱線]

電熱線・抵抗線事業に関連する経営環境におきましては、自動車関連は回復の兆しが見えつつあるものの、家電関連、産業機器関連、住設関連は中国を中心とした世界経済の失速感からの需要低迷が続いております。加えて、エンドユーザーおよび流通、部品メーカー等各段階での過剰在庫の調整が続いているとともに、在庫消化の足取り

も重い状況となっております。そのような状況を受け、売上高は429百万円（前年同期比28.8%減）となりました。

利益面におきましては、受注減少による原価高や中国景気の減速による需要減が意識されたことによりニッケル価格が下落したことの影響を受け、セグメント利益は12百万円（前年同期比82.4%減）となりました。

今後におきましては、世界経済の回復への足取りが重いことや製造業での過剰在庫調整の長期化等、厳しい状況が予想されますが、引き続き自動車のEV化やカーボンニュートラルの進展を背景に、拡大が見込めるマーケットでの新規開拓を進めるとともに、その為の取扱鋼種および関連部材の取扱拡大に引き続き注力いたします。また、品質・信頼性の向上や生産性向上と原価低減を図り、業績の向上に努めてまいります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は7,517百万円となり、前連結会計年度末と比べ9百万円増加しました。これは主に受取手形及び売掛金が176百万円減少しましたが、現金及び預金が101百万円、商品及び製品が79百万円増加したことによるものであります。固定資産は4,556百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,113百万円増加しました。これは主に土地が902百万円、投資有価証券が41百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は12,073百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,122百万円増加しました。

#### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は3,408百万円となり、前連結会計年度末に比べ43百万円増加しました。これは主に電子記録債務が197百万円減少しましたが、短期借入金が162百万円、1年内返済予定の長期借入金85百万円増加したことによるものであります。固定負債は2,202百万円となり、前連結会計年度末に比べ688百万円増加しました。これは主に長期借入金454百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は5,610百万円となり、前連結会計年度末に比べ732百万円増加しました。

#### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は6,462百万円となり、前連結会計年度末に比べ390百万円増加しました。これは主に資本剰余金が301百万円、利益剰余金が37百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は53.5%（前連結会計年度末は55.5%）となりました。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末より91百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末には1,707百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

「営業活動によるキャッシュ・フロー」は12百万円の獲得（前年同期は40百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益111百万円（前年同期は税金等調整前四半期純損失112百万円）や負ののれん発生益76百万円（前年同期は該当なし）、売上債権の減少242百万円（前年同期は104百万円の増加）、仕入債務の減少224百万円（前年同期は47百万円の増加）によるものであります。

「投資活動によるキャッシュ・フロー」は234百万円の使用（前年同期は80百万円の獲得）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出192百万円（前年同期は36百万円の支出）および連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出38百万円（前年同期は該当なし）によるものであります。

「財務活動によるキャッシュ・フロー」は324百万円の獲得（前年同期は444百万円の獲得）となりました。これは主に、短期借入金の増加159百万円（前年同期は470百万円の増加）、長期借入れによる収入454百万円（前年同期は250百万円の収入）および長期借入金の返済による支出198百万円（前年同期は176百万円の支出）によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の連結業績予想につきましては、2023年5月12日に公表いたしました数値から変更しております。詳細につきましては、本日（2023年10月31日）公表の「2024年3月期第2四半期（累計）連結業績予想と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,616,292	1,717,548
受取手形及び売掛金	2,730,640	2,554,612
電子記録債権	798,315	774,111
商品及び製品	1,373,338	1,453,175
仕掛品	356,884	308,872
原材料及び貯蔵品	547,722	604,512
その他	84,924	104,339
流動資産合計	7,508,118	7,517,172
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,524,469	2,427,027
その他(純額)	1,257,065	1,415,238
有形固定資産合計	2,781,535	3,842,265
無形固定資産	152,274	144,940
投資その他の資産		
投資有価証券	451,561	492,759
その他	56,983	76,141
投資その他の資産合計	508,544	568,901
固定資産合計	3,442,354	4,556,107
資産合計	10,950,473	12,073,279
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	584,581	546,800
電子記録債務	1,643,986	1,446,765
短期借入金	413,468	576,096
1年内返済予定の長期借入金	355,187	440,961
リース債務	58,389	50,696
未払金	121,153	164,285
未払法人税等	27,399	25,428
賞与引当金	84,048	74,801
その他	76,117	82,477
流動負債合計	3,364,332	3,408,313
固定負債		
長期借入金	1,245,838	1,700,355
退職給付に係る負債	28,802	37,832
リース債務	133,245	135,889
その他	106,062	328,450
固定負債合計	1,513,948	2,202,527
負債合計	4,878,280	5,610,840

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,136,518	1,136,518
資本剰余金	1,144,244	1,445,439
利益剰余金	3,610,072	3,647,201
自己株式	△144,713	△143,827
株主資本合計	5,746,121	6,085,332
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	268,190	295,376
為替換算調整勘定	41,628	61,798
退職給付に係る調整累計額	16,252	19,932
その他の包括利益累計額合計	326,070	377,107
純資産合計	6,072,192	6,462,439
負債純資産合計	10,950,473	12,073,279

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	4,877,082	4,877,175
売上原価	4,042,694	4,068,382
売上総利益	834,387	808,793
販売費及び一般管理費	738,444	809,032
営業利益又は営業損失(△)	95,943	△238
営業外収益		
受取利息	10	25
受取配当金	7,423	7,688
受取家賃	3,240	3,576
仕入割引	2,177	1,584
為替差益	27,815	15,161
受取保険金	—	18,257
その他	13,000	7,992
営業外収益合計	53,667	54,286
営業外費用		
支払利息	5,014	7,840
支払手数料	—	8,971
その他	1,745	2,157
営業外費用合計	6,760	18,970
経常利益	142,850	35,077
特別利益		
投資有価証券売却益	44,643	—
負ののれん発生益	—	76,785
特別利益合計	44,643	76,785
特別損失		
固定資産除却損	1,807	198
株主提案対応費用	129,554	—
訴訟関連損失	169,000	—
特別損失合計	300,362	198
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△112,868	111,663
法人税、住民税及び事業税	44,110	12,536
法人税等調整額	△49,717	5,687
法人税等合計	△5,606	18,223
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△107,261	93,440
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	—	△1,033
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△107,261	94,474



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△107,261	93,440
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△43,339	27,185
為替換算調整勘定	21,477	20,170
退職給付に係る調整額	△2,639	3,680
その他の包括利益合計	△24,500	51,036
四半期包括利益	△131,762	144,476
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△131,762	145,510
非支配株主に係る四半期包括利益	—	△1,033

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△112,868	111,663
減価償却費	98,750	104,145
賞与引当金の増減額(△は減少)	761	△9,247
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△7,926	4,801
受取利息及び受取配当金	△7,433	△7,714
支払利息	5,014	7,840
固定資産除却損	1,807	306
投資有価証券売却損益(△は益)	△44,643	—
負ののれん発生益	—	△76,785
売上債権の増減額(△は増加)	△104,538	242,639
棚卸資産の増減額(△は増加)	△87,693	△53,148
仕入債務の増減額(△は減少)	47,646	△224,449
未払金の増減額(△は減少)	171,859	△65,018
その他	67,097	△2,597
小計	27,832	32,436
利息及び配当金の受取額	7,433	7,714
利息の支払額	△5,163	△8,401
法人税等の支払額	△70,398	△19,397
営業活動によるキャッシュ・フロー	△40,294	12,351
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△36,637	△192,860
投資有価証券の取得による支出	△2,491	△1,037
投資有価証券の売却による収入	119,154	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△38,854
その他	—	△1,473
投資活動によるキャッシュ・フロー	80,025	△234,226
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	470,948	159,301
長期借入れによる収入	250,000	454,000
長期借入金の返済による支出	△176,351	△198,037
配当金の支払額	△68,658	△57,146
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△1,167
その他	△31,768	△32,846
財務活動によるキャッシュ・フロー	444,169	324,103
現金及び現金同等物に係る換算差額	△13,449	△10,972
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	470,450	91,255
現金及び現金同等物の期首残高	1,071,992	1,616,292
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,542,443	1,707,548

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、株式の取得(子会社化)により株式会社河南伸銅所を連結の範囲に含めておりません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電線	ポリマテック	電熱線	
売上高				
ゴム電線	1,514,819	—	—	1,514,819
プラスチック電線	1,611,155	—	—	1,611,155
押出成形品	—	891,867	—	891,867
機能樹脂品	—	44,678	—	44,678
電熱線	—	—	603,400	603,400
その他	210,038	1,121	—	211,160
顧客との契約から生じる収益	3,336,013	937,667	603,400	4,877,082
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,336,013	937,667	603,400	4,877,082
セグメント間の内部売上高又は振替高	574	—	108	683
計	3,336,588	937,667	603,509	4,877,765
セグメント利益	23,991	2,460	69,491	95,943

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電線	ポリマテック	電熱線	
売上高				
ゴム電線	1,577,421	—	—	1,577,421
プラスチック電線	1,713,013	—	—	1,713,013
押出成形品	—	904,827	—	904,827
機能樹脂品	—	28,010	—	28,010
電熱線	—	—	429,644	429,644
その他	222,821	1,435	—	224,257
顧客との契約から生じる収益	3,513,257	934,273	429,644	4,877,175
その他の収益	—	—	—	—
外部顧客への売上高	3,513,257	934,273	429,644	4,877,175
セグメント間の内部売上高又は振替高	165	—	124	289
計	3,513,422	934,273	429,768	4,877,465
セグメント利益又は損失(△)	14,280	△26,752	12,232	△238

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(重要な負ののれん発生益)

「電線」セグメントにおいて、第1四半期連結会計期間に、株式会社河南伸銅所の株式取得による連結子会社化に伴い、負ののれん発生益が発生しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第2四半期連結累計期間において76百万円であります。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。